

学校教育目標	めざす子どもの姿	総合評価
だれにもやさしく げんきよく しっかり学ぶ武石の子	学び合い高め合う子ども	<ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルスの感染状況を注視すると共に、感染対策に努めながら教育活動を進めていくことができた。学校行事についても、事前の計画と準備の下、工夫して実施することができた。 地域と連携し武石地域らしい取り組みができていく。また、子どもたちの見守りにつながりができている。地域との連携や地域の学習は有効であり大切にしていきたいが、そのために、基本的な学習の時間が少なくなるようにしていく。少人数の学校のよさを生かし、子どもたち一人ひとりの学習の様子を確認し、きめ細かな指導を継続していきたい。

今年度の重点目標	「地域力」をベースとして効果的に「ICT」を活用して「学び合う」		
	成果と課題	総評価	改善策・向上策
重点1 「主体的・対話的で深い学び」のある授業	<ul style="list-style-type: none"> 体育科・学力向上に2つのグループで授業改善を進めてきた。学力差は大きく、底上げが必要。 「やってみたい」という思いがあれば子どもも主体的になり対話をする必要も出てくる。 	B	学習面で困難を抱える子どもややりたいと思える授業づくりをする。魅力のある教材と出会えるよう、日々研究していく。
重点2 「地域力」をベースにした体験・交流など実践的な学習	<ul style="list-style-type: none"> 遠隔オンライン授業は南部支会の新たな交流の場となった。 どの学年も武石ならではの活動ができた。地域の方々の協力や場の設定があり、武石らしい取り組みがなされた。 地域の方が温かく、支えてくれる環境が大変ありがたい。 	A	これまでの形態にとらわれず、今にあった形の体験・交流活動を生み出していきたい。コロナの2年の経験を活かしながら、地域人材を活用する。
重点3 目標達成を目指す活動の充実	<ul style="list-style-type: none"> 職員数が少なく、兼務の中、助け合って校務にあたっている。若手の職員の活躍に助けられている。コロナ禍の中、どうしたらできるか、模索し工夫して行った。 	B	ひとり一人の職員が自分のまかされた仕事に軽重を付け、無理をせず校務を行っていききたい。

領域	評価項目	評価の観点	成果と課題	改善策・向上策			
				A	B	C	D
教育活動	教科指導	<ul style="list-style-type: none"> ICTの活用を進めることができたか。 主体的・対話的で深い学びのある授業を行うことができたか。 	<ul style="list-style-type: none"> ICT主任による研修、職員会での実践報告、ICT支援員のサポートにより想像以上に活用が進んだ。子どもたちが体の一部のように使っている。 グループ活動を多く取り入れ、教え合い、かかわりあって活動した。 				来年度の研究の方向が見えた。「主体的・対話的な学習」について本校ではどう考えていくか共通理解し授業改善を行っていききたい。ICTが深い学びにつながるように活用していきたい。教師自身のICT技術のスキルアップを図る。来年度は発信・プレゼンカの向上にシフトしていく。
	思考力・判断力・表現力を伸ばす	<ul style="list-style-type: none"> 思考ツールを活用しながら3つの力を伸ばすことができたか。 	<ul style="list-style-type: none"> 12月に研修を行った。活用を進めていきたい。 必要に応じて思考ツールを活用した。 授業の中で、個人追究・共同追究の時間をとり、3つの力を伸ばすようにした。 				思考ツールにとらわれず、3つの力を伸ばす指導をしていきたい。来年度は表現力、特にプレゼンカを伸ばすことに力を入れる。
	家庭学習の充実	<ul style="list-style-type: none"> 「手引き」を活用し、家庭学習が充実がなされているか。 	<ul style="list-style-type: none"> 学級懇談会で呼びかけたり、自主学習を紹介し合った。自主学習が日常化している。色々工夫してやっている様子が見られるようになってきた。自主学習までいかない子もいる。 				個人差がある。保護者のかかわりが課題。家庭への周知と協力体制を強める。やる気が出るための支援を考える。
	南部支会の連携	<ul style="list-style-type: none"> 南部支会4校での児童生徒の交流が図れたか。 学年会・教科会等での学び合いができたか。 	1, 2, 3年が直接交流、4, 6年はオンラインで交流ができた。学年会では必要な情報交換ができた。6年生は定期的に連絡を取り合った。養教部はICT使った保健指導の実践を共有した。				小中連絡会の内容やデータのやり取りなど改善する。低学年は直接会って交流が望ましい。高学年は4年生が行ったような学び合いに挑戦する。中学校見学はコロナ禍であっても計画的にお願いしたい。
	特別活動	<ul style="list-style-type: none"> 自発的・自主的な活動 認め合い、所属感のある学級活動がなされたか。 共生社会の担い手を育成する児童会活動がなされたか。 「個の確立」を図る学校行事や集会活動がなされているか。 	<ul style="list-style-type: none"> 縦割り班活動を年間通したことで高学年の意識が高まった。6年児童が考えた児童会企画が実現できるよう、担当職員に支えていただいた。子ども達の自信につながった。 コロナ禍であったが、工夫して行事運営ができた。 				たて割りグループでの活動は、本校の特色として児童会活動の中で充実させていく。コロナが終息すればもっと増やせる。低学年はクラスの係の充実を図り、児童会活動につなげていきたい。
道徳総合	<ul style="list-style-type: none"> 心を耕し考えを広める時間の充実 教材研究が十分できたか。 地域の素材を生かした学習ができたか。 	<ul style="list-style-type: none"> 大豆、コメ、桜チップの燻製、卒業記念品制作など、地域の人、モノ、ことに触れる活動を充実させることができた。地域に育てられていると感じながら活動した。 				学校主体であるが、外部ボランティアに支えられている。学んだことが子どもたちの生活に十分反映されるよう見守る。例年やっているからやるというのではなく、そのクラス・児童に応じた教材化を図っていく。	
学校運営	家庭・地域との連携	<ul style="list-style-type: none"> 相談・支援体制 情報発信 	<ul style="list-style-type: none"> 困ったことが起きた時、早い段階で教頭を中心にすぐに職員連携が図られ、多くの目で見守り、支援し、改善に向かっていく。保健室、相談室で救われている児童がいる。丁寧な保護者対応ができていく。外部と連携した。 				担任をひとりにしないう体制づくりを継続。相談週間で担任が一人ひとりの児童の声を聴くことを続けたい。
	地域から学ぶ・地域の教育力の活用	<ul style="list-style-type: none"> 自然環境を生かした学びを進めたり、地域の教育力を活用したりすることができたか。 	<ul style="list-style-type: none"> 月1学校便りは新聞折り込みで地域にも発信。学年だよりは週1以上発信。ホームページも随時更新。学校、学級の様子を伝えられた。オクレンジャーによる早い情報伝達ができている。ICT支援員にも協力をお願いした。 				コロナの警戒レベルによって行事の可否等変わってくる。その都度家庭に伝えていくと混乱が少ない。
	研修	<ul style="list-style-type: none"> 授業力の向上 「みんながわかる・できる」授業実践のために、日々授業改善をし、研究会を通して学ぶことができたか。 	<ul style="list-style-type: none"> 支援ボランティアの協力の下、武石ならではの教育ができていく。放課後自習室の見守り支援は子どもの励みになっている。 				武石の自然環境を生かした活動を増やしていきたい。コロナが明けたら、地域の方ともしっかりかかわって活動したい。
	組織	<ul style="list-style-type: none"> 情報の共有・全職員による学び合い・支え合い 教科指導や生徒指導などに関わる情報を共有し、チームで支援・指導にあたれているか。 	<ul style="list-style-type: none"> チーム支援の体制、高学年で一部教科担任制が構築され、全職員で全児童に関わるのができた。 新しく導入されたC4th校務システムやGIGAスクールでのクロームブック活用について職員間で学び合い、情報伝達のため使用できた。 				今年度のテーマ「UD化」は今後とも続ける。来年度のテーマ「子どもの『やりたい』が生まれる授業」が達成できるよう、日常的に実践する。
							全職員ですべての子を見る、担任任せにしないという方向で進んでいきたい。教科担任制は無理のない範囲で進めたい。